

皆さん、おはようございます。本日は第 68 回総会を開催いたしましたところ、会員ならびに名誉会員の皆様には全国各地から例年と変わらぬ多数のご参加いただきまして誠にありがとうございます。2 期 4 年目の会長職を勤めます愛知県半田保健所、澁谷いづみでございます。宜しくお願いします。

本日は大変お忙しい中、厚生労働省健康局長外山千也（とやませんや）様代理、厚生労働省大臣官房参事官木村博承（きむらひろつぐ）様、秋田県知事 佐竹敬久（さたけのりひさ）様、ならびに秋田県医師会会長 小山田擁様（おやまだ たすく）様代理副会長の斎藤征司（さいとうせいじ）様にはご臨席の榮譽を賜り誠にありがとうございます。

日頃は保健所の公衆衛生行政ならびに全国保健所長会の活動にご指導ご鞭撻をいただき、重ねて厚く御礼申し上げます。

また、本日全国保健所長会会長表彰させていただきます会場前列に着席の皆様には、長年にわたり保健所活動に携わり、公衆衛生の向上に尽力されてこられました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後も保健所の内外からご指導を頂きたく、皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、さる 3 月 11 日に発生しました東日本大震災は、津波、原子力発電所の事故と未曾有の複合災害となり、この東北の地のみならず、日本中いたるところ、あらゆる場面において、これまでの暮らしと様々な価値観を問い直す衝撃となりました。自らも被災しながら活動を続けてこられた被災地の数多くの公衆衛生従事者の皆様には、心より敬意を表しお見舞い申し上げます。更に被災地支援に多くの会員と保健所職員にご協力をいただいておりますこと、この場をお借りして感謝申しあげます。また会として直後から、全国衛生部長会、厚生労働省、日本公衆衛生協会などと緊密に連携してまいりました。皆様のご理解と御協力に感謝申しあげます。

震災は、この日を境に地域の第一線で公衆衛生活動をする我々に改めて膨大な課題を突きつけました。公衆衛生の「人々の健康、生命や生活を衛る」という原点に立ち返って、健康危機管理に限らず、会員一人ひとりの地域の保健活動を見直すと共に、保健所長会として「連携と提案」をしていくことが求められています。

これまでの枠にとらわれない国や自治体の支援体制の構築や、保健所の地域に根ざした日々顔の見える地域保健活動の重要性、住民の参画を重視しそれを中心に市町村と重層的な、さらに健康の視点でのまちづくりの必要性、災害と情報の収集と活用のあるあり方など、所長会として地域保健検討会など次の行動へつないでいくことが出来ればと検討会の行方にも期待しております。

そこで本年度は、6 月に行いました国への予算と施策の要望をはじめ調査研究事業やブロック毎の戦略会議、例年 1 月に予定しております全国研修会など、主な活動を災害の健康危機管理に関連したものとさせて頂きました。今年は台風 12 号による被害も大きく、

我が国はこうしてみますと全国的に、地震、台風など自然災害のもとも多い国であり、その備えが保健所の重要な機能であることを強く感じております。

本日午後の会員協議もこの度の震災をテーマにディスカッションすることとしております。今回は特に会長表彰者の皆様にも、若干の傍聴席を用意するとのことですので、時間が許せばお聞きいただきたいと思っております。会員の皆様にはこのことをご了承いただき、ぜひ活発な議論をお願いいたします。

さて、当会は市型保健所の増等により本年度は、昨年より1カ所多い全国495の保健所でスタートいたしました。東日本大震災の引き続きの対応と、食肉の生食による食中毒事件を受け、意見を集約するなど年度当初からスピード感を持った対応を迫られました。

震災から半年以上が経過し、被災地への支援方法の変更や長期に渡る健康診断がはじまるなか、今一度決意を新たに、被災地の対応の長期化を見据え、それぞれの保健所の日常の地域保健活動および健康危機管理体制の見直しと連携をよびかける会員に向けたメッセージを9月30日に発出しました。ご覧いただけたかと思いますが、会員にこうしたメッセージを出すのは、いわゆる中国餃子の食中毒事件の折りの保健所バッシングに対して反省と今後に向けての決意を示したものであります。

私達の業務はうまく行って当たり前、いかなければ批判される現状があります。広域の食中毒事件や新型インフルエンザの対応を乗り越え、食品衛生、感染症について保健所は健康危機管理の拠点として地域社会に認識され、誇りを持って活動するにいたっています。同様に、自然災害に対しても支援する・される立場によらず、皆さんには誇りを持って活動していただきたいと考えています。

また今年度は新型インフルエンザ対策行動計画も見直され、科学性を考慮した健康日本21計画の評価も出されました。地域保健対策見直しの検討会も再開されると聞いております。新たな変化を取り入れたステップアップのための一年となりましょう。全国保健所長会に対し、政策にかかる意見や参加を求められる機会が度々ありますので、引き続き問題意識を絶えず持った会員各位の協力をお願いいたします。このような機会は全国所長会として、保健所の現状とビジョンを効果的に表明することのできる、さらに公衆衛生の向上に寄与することができる機会と考えているからです。

一方、保健所長の兼務の解消を図るための公衆衛生医師の確保は、引き続き最重要課題の一つです。このことは単に行政組織の形式の問題ではなく、日本の公衆衛生の根幹に関わる問題であると認識しております。本年度は地域保健総合推進事業の研究班として保健所長以外の保健所医師などにも積極的に参加いただき活動を強化しております。

さて、これまで会員の希望をできるだけ生かしながら、会の組織としての環境整備と会員の結束を図ることに重きをおき、役員・理事そして委員会と協力し会を運営して参りました。本年度はこれまで以上に結果を出すことを要求されてくると考えます。その成果が地域にどの様に還元されていくか、評価が必要です。学術担当理事会では地域保健総合推進事業の研究評価を試みていただいております。本日午後の「研究事業報告」で報告をいたします。

来年3月で私は会長職の任期が終了しますが、これまで役員・理事、委員、研究班員などをお引き受けいただいている先生方には、ご尽力のところから感謝申し上げますとともに、引き続き会務の運営に御協力をお願いいたします。さらに日頃、活動に送り出していただいている自治体、各所長会にも重ねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

組織は生き物ですので、継続性を力に、新陳代謝し変化に対応していくことが期待されます。ひとりひとりの会員の日々の活動が大きな力となります。今後も更に研鑽して参りましょう。

結びに、本年度の総会を準備していただきました秋田県と秋田県保健所長会、並びに困難な状況の中で東北ブロック長として開催にご尽力いただきました遠藤監事には誠にありがとうございました。東北の地での本日の開催をぜひ会員一同意義深いものになりたいと思います。

今後も私達はそれぞれ保健所の地元の住民を見ながらも、皆、東北に思いを馳せ、日々活動してまいります。会員は全国つながっております。今後も宜しくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。